

インフルエンザワクチンの効果

【効果を評価する時に及ぼすファクター】

* 対象者の年齢

- ・乳幼児
- ・小児／思春期
- ・成人
- ・高齢者

* インフルエンザの定義

- ・臨牀診断: 発熱の定義*
- ・ウイルス学的診断

* ワクチン株と流行株の抗原性

*インフルエンザ流行中に他のウイルスも流行している

不活化インフルエンザワクチンの有効率：欧米と日本

年齢群	診断基準	有効率(%)	
		日本	欧米
小児 6歳未満	ウイルス学的		58
	ILI	22~25	28
6歳以上	ウイルス学的		65~78
	ILI	24~40	28
成人	ILI		70~90
	入院回避		90
高齢者	ILI	34~55	30~40
	入院回避		50~60
	死亡回避	≥80	80

(文献8,11,12,13から作表)

ILI: インフルエンザ様疾患、ウイルス学的診断: ウイルス分離、血清診断などを用いた実験室診断

ワクチン株に対して流行株が変異すると有効率は60%に低下する。

インフルエンザワクチンの効果(01/02シーズン)

【研究方法】

4園でのインフルエンザ流行調査(2002年3月末)

園でのインフルエンザ流行: ワクチン歴がない園児の30%以上が39°C以上の発熱を認めたとき

	発熱率				フル流行
	≥37.5°C		≥39°C		
	V0回	V2回	V0回	V2回	
D園	17/24(70.8%)	18/24(75%)	3/24(12.5%)	3/24(12.5%)	なし
K園	21/49(42.9%)	21/32(65.6%)	10/49(20.4%)	6/32(18.8%)	なし
M園	7/16(43.8%)	9/13(69.2%)	3/16(18.8%)	3/13(23.1%)	なし
G園	17/24(64.3%)	26/35(74.3%)	13/24(54.2%)	11/35(31.4%)	あり

G園のクラス別発症者(39°C以上の発熱者/人数)

	V0回	V2回	フル流行
1歳児	4/4	2/5	あり
2歳児	6/8	5/12	あり
3歳児	0/4	1/5	なし
4歳児	2/4	3/7	あり
5歳児	1/4	1/11	なし

流行ありクラスの有効率
発熱率

ワクチン歴なし 75.0%

ワクチン歴あり 41.7%

有効率=44.4%(P=0.00388)

インフルエンザワクチンの効果(02/03シーズン)

【定義】

- ・インフルエンザ様疾患: インフルエンザ流行期間中の39℃以上の発熱
- ・インフルエンザの流行: ワクチン未接種者の発熱率 $\geq 30\%$
または クラスの発熱率 $\geq 20\%$
- ・インフルエンザの流行: 2~8週にAH3の流行、8~14週にBの流行

園	クラス				
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
S園	*	*	*	*	B
KA園	A	A	A	なし	なし
D園	*	A	A	A	なし
KY園	*	*	B	A	なし
M園	*	なし	なし	なし	なし
G園	A	なし	なし	なし	なし

* : クラス構成がなし

D園・KA園・M園: 昨シーズン流行なし

G園 : 昨シーズン流行あり

発症率	
AH3に対する効果	
ワクチン群	21/74(28.4%)
非接種群	28/58(48.3%)
有効率	41.2%
	P=0.01885
Bに対する効果	
ワクチン群	7/38(18.4%)
非接種群	12/29(41.4%)
有効率	55.6%
	P=0.03886